

ありがとう

随筆の原稿締め切りは○日です、と担当が言う。何のこと？「あれっ？引き継ぎ無かったですか？」と説得されてしまった。

さてどうしよう、不慣れた文筆に悩みは始まった。仕事の話は難しい、政治の話は堅い、人の悪口は嫌だ、考えあぐねて花の話にこだわって書き始めた。

ある日、高橋前市長が「書いているね」と言う。「え？ノルマと言われましたよ」と言う、「そう？急いで書く粗雑になり、後で恥ずかしかった」と笑っていた。これはその後の大きなストレスとなった。夜中に締め切りを思い出して書いたり、出張中の列車の中で書いた苦戦の連続であった。

父は、若いころから文筆が好きで、丁寧に調べて仕

上げていた。母は父の最大のファンであった。私も書き始めたころ、まず母に見せると喜んでくれた。母は「やはり父さんの方がうまい」と論評しつつも毎号切り抜いてファイルしてくれたが、父は下手な文章が目につくからか、私の目の前では読んでくれなかった。少し自信をなくしたが、結局は実力の差と開き直った。中学の担任の先生が、彬君も勉強したなと少し評価してくれた。よほど当時の作文はひどかったのである。市民の皆さんから「読みましたよ」楽しみにしてますよ」と声を掛けられうれしく励みになったが、ギブアップしそうにもなった。どこにでもある話題を探しつつ今月で130回となった。広報を楽しんでくださった人が一人でも増えたとすればうれしいことです。漢字も随分忘れたなあと実感、ノルマを達成した安ど感にひたりつつペンを置かせていただきます。

長い間お読みいただき、ありがとうございます。

あとがきにかえて

最後の原稿を出し終えてホッとしていた翌日、最悪の地震が発生し身も心も大きく揺さぶられました。穏やかな日々を題材としてつづつたつもりの「散歩道」を、あえて修正をせずに掲載することとしました。まずは被災地の皆さま方に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

北上市も少なからず被害はあり対策本部は混乱を極めました。沿岸地域の被害を見ると言葉が失っています。多くの皆さまの温かいご支援を感謝しつつ、救援物資などを被害地にお届けしています。被災地の苦しみは想像の域を越えています。

わたしも任期中、油の流出事故、後藤野の爆弾処理、北上川の水害、つい最近の水道管の破損などになんとか対応できたものの、今回の大災害には現代の科学社会であつて

も人間の無力感と自然の底知れない恐ろしさを、改めて感じさせられました。

数年前、沿岸の津波防潮堤の上に案内され、その巨大さに驚きました。やや自慢めいた説明ではありましたが、沿岸地域住民の津波の恐怖感の強さをうかがい知らされました。友人が興味深い資料を送ってくれました。日本書紀や平家物語、方丈記にも大地震の記載があり、遠国も近国も被害、民家の倒壊、液状化、津波の来襲、船の被害は今回の災害とあまりにも似ています。その大地震のサイクルと科学的分析から、学者の高い確率での発生予測が現実となつてしまいました。

この度の地震は、古来からの地震国日本の知識と知恵でも想定外とされています。なぜでしょう？

「地震、雷、火事、親父（お

やじ？」。怖さの序列と認識は変わってしまったのか、東日本大震災は、人類と大自然との共存を政治、経済、社会生活を含め、わたしたちに安全安心社会の実現に大きな警報とテーマを与えました。

テレビでは、こんな厳しい災害の中でも懸命に頑張る人たちや子どもたちの無邪気な笑顔が報じられています。自分に置き換えてみて言葉もありません。遠くの知人友人たちからの多くの温かいお見舞いや励ましと支援が身に染みしました。沈んでばかりでは進みません。前向きな強い復興を願ひ、共に応援を続けたいと思つています。地域も日本も早く元気を取り戻すように。「がんばろう！岩手」

平成23年4月

北上市長 伊藤 彬

お断り

市長随想「散歩道」No130は、3月25日発行号に掲載するため地震発生前に書かれたものですが、地震の影響により今号への掲載となりました。「あとがきにかえて」は、地震の被害を受けて新たに追記されたものです。



中央図書館 ☎ 63-3359
江釣子図書館 ☎ 77-2215
和賀図書館 ☎ 72-2322

失敗しない！新郎新婦のあいさつ&手紙 日本文芸社
テーピング教科書 石山 修盟
もう限界！！認知症の家族を介護するときに読む本 自由国民社
ほんなんてだいきらい！ 主婦の友社
まちのいぬといなかのかえる ジョン・Jミュージス
シオドアとものいうきのこと レオ=レオニ
だっこの木 宮川 ひろ

《4月の新着本から》



『徹子ザ・ベスト』
黒柳 徹子 著 講談社
仕事も恋も人生も、答えは徹子さんにあり！両親のこと、ライフワークである舞台、大好きな人たちとの別れ、戦争の恐ろしさなどについてつづる。



『タイムカプセル』
おだしんいちろう 作 こばようこ 絵
親友同士のえいたとはるとは、春に小学生になります。もうすぐ離れ離れになるといのに、ある日ふたりは大ゲンカ。ふたりの卒業式はどうなってしまうのでしょうか…。

きたかみ物産館



心を込めてお届けする
軍手

大人用12双350円、子ども用10双300円、カラー(1色)8双300円、レインボー(7色)7双300円
※同センター、まごころ工房(江釣子SC/パル)で販売中。
北上アビリティセンター
二子町秋子沢214-7
☎66-5400 FAX) 66-5481



右から桑山義一さん、高橋フキ子さん、関浩浩さん、佐々木進所長

何度洗っても型くずれ知らず
目が細かく、丈夫な糸を使っているので長持ちします。手首のゴムを丁寧に縫製しているのも何度洗っても型くずれしない軍手は、柔らかくて、肌触りがいいと評判です。手首のゴムの色は全部で10色。サイズは大人(L・M)用、子ども用があり、農作業や清掃活動に欠かせません。

国際交流ルーム発



ハロー！まいふれんど ⑫⑦

“1,000 Cranes for Japan” candlelight vigil
千羽鶴に祈りをこめて

姉妹都市コンコード市では3月31日、市内の公園トドス・サントスプラザを会場に東日本大震災の被災者のための追悼式が開かれ、集まった多くの市民が亡くなられた方々を悼んだほか、日本復興を願って5千羽以上の千羽鶴を折りました。司会を務めたコンコード・アンバサダーのマイケル・パストリック会長が本市との姉妹都市交流の経過や震源地との位置関係などを説明した後、ティム・グ



キャンدلライトを手に被災者へ黙とうをささげる参加者たち

レイソン市議の追悼の言葉に続き、全員で黙とうをささげました。ロン・レオーヌ副市長が千羽鶴を折る企画を立てた理由を「日本ではお見舞いや願いをかなえるときに千羽鶴を折る習慣がある」と説明しました。当日、会場の木々には大きな鶴が飾られたほか募金活動が行われ、集まった2千ドル以上の義援金が総領事館や赤十字社などを通して日本に贈られました。詳しい模様はYou Tubeの映像でご覧いただけます。

http://www.youtube.com/watch?v=xqpW6SmoP70
国際交流ルーム
電話・ファクス：63-4497
電子メール：kiah@kitakami.ne.jp
おでんせプラザぐるーぶ3階 生涯学習センター内
開館日：毎週月-土曜日 午後1時-7時
休館日：日曜・祝日、第3水曜日、年末年始